

「奴隷の道」

特に大陸間の奴隷貿易に関する科学的な調査活動と、テーマに関するネットワークの推進が、「奴隷の道事業」の開始にあたって優先された。科学的な組織や、認められた調査員によって調整されたネットワークは、調査の発見、奴隷貿易に関する教育に寄与し、記憶された場所を説明して、生きた芸術的・文化的な表現に意味づけを与えている。この事業は、特に奴隷貿易や奴隷制に影響された世界の多くの国で関心と呼んできた。その結果として、キャンペーンへの認知、調査の発展、業績の出版や教材の製作が促されてきた。奴隷貿易と奴隷制を国際的な次元の問題とすることにより、この事業は奴隷貿易と奴隷制を、人間性全体に関わる悲劇とした。今日、各国はこの悲劇的な歴史の章を開き、記憶として共有し、政策に加えることについて、より積極的になっている。事業の主要な成果の一つが、2001年に南アフリカで開かれた人種主義、人種差別、排外主義に反対する国際会議による、奴隷貿易と奴隷制を人道性に対する犯罪と認識することへの貢献である。戦略的な行動計画が、2004年を奴隷制とその廃止に向けた闘い、ハイチ革命と、奴隷による自由と尊厳のための過酷な闘いへの賛辞とを記念する国際年とする国連宣言をもたらした。この記念年の間、移動展「奴隷制への勝利を忘れずに」や、エメ・セゼール、アビダス・ドゥ・ナシメントの奴隷制後の影響への闘いの2つの記念碑へのユネスコの表彰であるトゥーサン・ルーヴェルチュール賞のような、奴隷の道事業に関する一連の重要行事が開始された。

他の提案への支援

自身の活動に加えて、奴隷の道事業は、奴隷貿易と奴隷制という問題に関する目的を共有し経験の交換を促すパートナーからの提案を支援している。

I 事業の起源

ハイチ他のアフリカ諸国の提案により、1993年の第27回ユネスコ総会は、奴隷の道事業（27C、決議 3.13）の設立を認めた。事業は公式に、1994年にベニンのウィダで開始された。鍵となる歴史上の出来事を隠すことを無視したり促そうとすること自体が、相互理解、国際的な融和と安定の障害になることを認識し、ユネスコは国連の根本的な目的の1つである平和維持へ貢献する手段として、奴隷貿易と奴隷制の研究を行うことを決めた。基本的な人権の否定の象徴であるこの悲劇は、人々の心に思い起こされなければならない。それは、先の世界大戦のような恐怖が「人間の尊厳・平等・相互の尊重という民主主義の原理を否認し、これらの原理の代わりに、無知と偏見を通じて人間と人種の不平等という教義をひろめることによって」引き起こされたことを認めるユネスコ憲章の序文を表している。奴隷貿易を覆ってきた国際的な沈黙、奴隷貿易に伴うひどい暴力、奴隷貿易を正当化するために用いられたイデオロギーと引き起こされた逆説的な交換による混乱によって、奴隷貿易は現代社会の関心問題である。それは、特に人権、アイデンティティの構築、市民権、資源の共有、文化



の共存など、今日の世界における最も重要な問題を提起する。

その規模と期間の大きさによって、奴隷貿易は人間の歴史上、最大の悲劇とみなされ、またグローバル化の未熟な形態である。それは、今日の世界の地政的また社会経済的な構造をある意味で説明する、大きな変化をもたらした。この痛ましい人間の歴史の一章を全体的、系統的に調査する必要性は、アフリカの国々の開発と、世界中のアフリカ起源の人々の経済的、文化的な地位についての歴史的要素の影響についての議論において、大変、緊急を要するものである。その経済的な影響のみならず、奴隷貿易はアフリカ、ヨーロッパ、アメリカ、インド洋、アラブのイスラム世界とアジアの人々の間の大きな交流をもたらし、それによって文化、知識、信念、行動を大きく変えた。奴隷貿易と共に始まった文化交流の過程は今も続いており、人間性を変え続けている。

「道」の概念は、現代社会の形成にあたって大きな重要性を持つ文化間の対話を促した独特の動きである奴隷制によって影響された、地域を変えたこの人々、文化、文明の交流の動きを表現するため選ばれた。そして過去を見るだけでなく、この事業は現代への理解を進め、多民族・多文化社会の将来への議論に貢献することを目的としている。

II 目的

- 複数の学問分野による調査を通じ、奴隷貿易と奴隷制の深い影響、意味、種類についての更なる理解に貢献することで、それらの悲劇を取り巻く沈黙を終結させること。
- 特に、悲劇によりもたらされた人々の国際的な動きと文化的な相互交流に注目しながら、現代社会への奴隷貿易の影響について、客観的に浮き彫りにすること。
- 文化の共存、新しいアイデンティティ、市民権、文化間の対話の形成についての対話を促しながら、民族間の寛容と平和的な共存の文化の形成に貢献すること。

III 組織

奴隷の道事業は、すべての組織の力を結集した、分野横断的なユネスコの事業である。このつながりに関して、この事業の特定の分野を考慮に入れることを正当に保証するため、奴隷貿易とその関連事項の研究に関するユネスコ活動のタスクフォースが、ユネスコ事務局長によって設立された。文化政策と文化間対話の部門が、事業の活動を調整し、進捗状況を管理している。この事業は、次の主体によって支援されている。

国際科学委員会

2006年に再度設立され、20人のメンバーからなる委員会は、その個々人の能力に基づいて、ユネスコの事務局長によって任命されている。その任務は、基本方針と、可能であれば奴隷の道問題についての合意に基づくアプローチを保証し、事業が重点

を置く分野をユネスコに対して助言することである。この分野横断的、文化横断的な委員会は、様々な科学の分野や様々な地域（アフリカ、アメリカ、カリブ、ヨーロッパ、アジア、インド洋、アラブ・ムスリム世界）の専門家から構成されている。

国内委員会

関連する人々の集団と利害関係者（知識人、調査者、芸術家、教育者、ジャーナリスト、地域のリーダーその他）を動かし、事業への参加を保証するために、数カ国において国内委員会が設立された。その任務は各国レベルでの必要な意識を啓発し、議論を促して、奴隷貿易と奴隷制の問題に関してとられた手段についての合意を形成することを助ける。国内委員会は、一般的に奴隷貿易と奴隷制の分野の専門家、ユネスコ国内委員会の代表、市民社会と学術機関、関係省庁から形成されている。

IV 事業のプログラム

その開始時から、事業は5つの密接に関連したプログラムによって組織されてきた。

- ・ 世界中の機関と専門家の、広範囲なネットワークに基づく科学調査プログラム
- ・ 世界中の 7900 以上のユネスコ協同学校のネットワークに支援され、教育の専門家がこの悲劇を公式・非公式のカリキュラムに含めることを促すように作られた教育・学術上のプログラム
- ・ 離散したアフリカ人への貢献と、生活文化、奴隷貿易と奴隷制から生じた交流の芸術的、精神的な表現の振興についてのプログラム
- ・ 奴隷貿易に関して書かれた資料と口述の伝統について、収集と保管を行うプログラム
- ・ 特に、記憶の観光プログラムの促進といった、奴隷貿易と奴隷制に関する有形・無形遺産の識別と保存についてのプログラム

V 事業の成果

行われた推薦と国際科学委員会によって設けられたガイドラインに基づき、事業の成果は次のような活動を含む。

- ・ 奴隷貿易とその文化的、経済的、政治的な影響についての重要な特徴に関する調査研究
- ・ シンポジウム、セミナーその他の重要な会議の実施
- ・ 展覧会、祭典、コンサートの実施
- ・ 教育、情報資料の作成
- ・ ドキュメンタリー映画の製作
- ・ 記憶の観光の発展のための場所一覧の作成



- ・ 口述伝統の情報収集
- ・ 奴隷制についての博物館の開設への支援
- ・ 奴隷貿易の遺産の識別、保全、宣伝
- ・ 科学的施設のネットワーク形成
- ・ 人々一般のための科学的な作品、書籍の出版
- ・ インターネットサイトの開設 (<http://www.unesco.org/culture/slaveroute>)
- ・ 奴隷制とその廃絶に向けた闘いを記念する国際年と国際記念日の祝福

VI 公表物

この事業は、ユネスコと様々なパートナーの調査のネットワークによって開始された調査の結果を公表するために、「人々の記憶～奴隷の道」と題されたユネスコのコレクションを設けた。これらにより、奴隷貿易とその影響の問題についての専門家の議論も公表した。15 の業績がこのようにして公表され、その題目はインターネットサイトに示されている (<http://www.unesco.org/culture/slaveroute>)。

この事業により、奴隷制とその廃絶に向けた闘いを記念する国際年の祝福について特別な関心を向けたニュースレターを公表する。

VII 事業の新たな展開

10 年を経て、この事業は、世界の異なる地域での影響とそれが引き起こした大きな希望、期待を明らかにする外部の評価を受けてきた。これらは以下のような内容を含んでいる。

- ・ インド洋、アジア、アラブ・イスラム世界とラテンアメリカのアンデス地方のような、これまでほとんど影響されていなかった地方での事業の活動を拡大し、強調すること。
- ・ 奴隷貿易と奴隷制の長期間の影響や、アフリカから世界の他地域への知識と技術の伝授、この歴史的な悲劇から生じた偏見と人種差別に対する闘いといった、これまでほとんど探求されていない課題を発展させること。

詳細な情報については、以下に連絡してください。

奴隷の道事業の調整

文化政策と文化間対話部門

1 rue Miollis, 75015 Paris

tel: 331.45.68.49.45

fax: 331.45.68.57.51

e-mail: r.esclave@unesco.org